

草津よし笛アンサンブル・ロータス

音楽を通じて
感動と喜びを伝えたい



琵琶湖が好き、音楽が好き、人を喜ばすことが好き。そんな思いを共有する仲間と一緒に市内の様々な施設に出向いてよし笛による演奏を披露し、音のハーモニーで人々の心をつかむボランティア団体取材しました。

音楽を通じてみんなが一つになる喜び

草津よし笛アンサンブル・ロータスは、社会福祉協議会に登録されているボランティア団体です。依頼があれば市内の様々な施設へ出向いてオーディオから流れる伴奏に合わせて、よし笛で唱歌や童謡を披露されています。また、季節に合った曲や訪問先の年齢層、リクエストに応じてプログラムを作成し、それを事前に訪問施設に伝えると、施設側が歌詞カードを準備してくださることがあり、その時は観客が演奏と一緒に歌って盛り上がるそうです。

グループ練習は、アミカホールの会議室で月3回、10時から12時までの2時間行われています。第1水曜日は希望者で行う自主練習、第2と第4水曜日は講師の指導を受けながら定期的に練習されています。

「よし笛は、一人でも吹けるけど、みんなで音を合わせるのが楽しい。訪問先で観客と一緒に歌ってくれると嬉しいし、もっと上手に吹けるようになりたい気持ちになる。」そう話す代表の中島さんにお話を伺いました。

大好きな琵琶湖があるから

草津よし笛アンサンブル・ロータスが設立されて今年で8年目になるそうです。アミカホールで開催されたよし笛連続講座をきっかけに、講座終了後の7月に、7月の誕生花であるハスの花の英名、ロータスをサークル名に加え、有志で立ち上がりました。演奏に使っている笛は近江八幡市の発祥で、琵琶湖周辺の水辺にあるよしを乾燥させ、竹製の吹き口を付けた長さ約25cmの細い笛です。小学校で習うリコーダーに似ていますが、後ろの親指の穴がないのが特徴です。作り方を伝承して公認を受けた方だけが作れる楽器は、一つ一つ手作りであるため、同じ笛でも吹き心地や出る音も少しずつ違ったりするそうです。

「よし笛は小さくて軽く、持ち運びが便利です。」と中島さんは手作りのケースから笛を取り出しながら見せてくださいました。メンバーは、琵琶湖や環境問題に関心ある方が多く、サークルを通じて新しい仲間と出会うことができたそうです。

活動分野 文化・芸術

メンバー数 24名

団体設立 2012年7月

団体ホームページ

ホームページは作成していません。訪問先でよし笛を披露させていただき、私たちの活動をお伝えしています。

練習の先にある感動

ホームページはなく、広報活動もあまり行われていないようですが、口コミや訪問先の評判でサークルの知名度が上がり、今は年に20回以上演奏会を行うまでになったそうです。現在は介護施設を中心に定期的に出向いて演奏されています。「ボランティアなので、みんなが楽しくできることが一番大切です。また、オファーがあればできるだけお応えするようにしています。」と話す中島さんは代表として演奏会のMCも担当しています。

「はじめは、雑音も多かったり、音が合わなかったりしたけど、オファーが増えていき、大勢の人の前で演奏する責任が必然的にサークルのレベルの向上につながりました。」と中島さんは過去の様子を振り返ります。テンポの早い曲は指の運びが難しく、また、休符が多い曲は、全員の音を揃えて迫力あるものにするに苦戦されているそうですが、地道な基礎練習とメンバーの成功に対する思い、講師の熱心な指導で現在のレベルにまで成長することができたそうです。

現在は、定員25名に近い人数で活動できており、メンバーがそれぞれできるところで、できる支援を行い、2年おきに交代する代表を含め、お互いに助け合いながら活動を行っているそうです。

みんなを幸せな気持ちにする

草津よし笛アンサンブル・ロータスは、現在100曲以上のレパートリーがあり、2年おきに参加するよし笛の定期演奏会では、他のよし笛団体さんの演奏を見聞きして刺激を受けるそうです。演奏会には必ず衣装を揃えてステージに上がり、サークルの一体感を演出しています。

活動を続けてきて、一番よかったことは、「仲間ができて交流の輪が広がったこと。」と中島さんはおっしゃいます。練習だけではなく、演奏会に向けての目標ができ、出向いた先でも新たな出会いがあることにも嬉しく思うそうです。

今後の目標を伺うと、「レパートリーを更に増やし、オファーがあれば積極的に出向いて演奏をすること。」と中島さんは意欲的です。滋賀県の郷土楽器を使って素敵なメロディーを奏でる草津よし笛アンサンブル・ロータスのみなさんが一人でも多くの市民のみなさんの前で心に感動を与える機会が増えると良いですね。

取材＊メモ

市内団体に向けた演奏会に同席させていただき、初めてよし笛という楽器を知りました。小さく細いよし笛からは様々な音がきれいに重なり、オーディオから流れる伴奏との一体感には自然と体が揺れてうっとりしてしまいました。MCの中島さんによる曲紹介にはちょっとしたストーリーがあり、観客として感動しながら、メンバーのみなさんを応援したくなる気持ちも現れました。いくつになっても新しいことに挑戦し、また、その活動が人の心を動かすことができる素敵な活動だと感じました。



▲訪問先での演奏会



▲心地よい音色にうっとりする観客



▲普段の練習の様子



▲よし笛の説明をする中島さん